

2015年9月27日(日)13:00

於 旧熊ノ平駅構内

うすいね
「碓氷嶺鉄道碑」現地説明会

再建の経緯を示す副碑

此碑は、アプト線建設当時之を記念する為軽井沢に建設されたものですが、大正一二年九月の大震災により倒壊したまま、幾星霜を雑草の中で埋もれていました。

碓氷峠及びアプトの文献が消損されてきております今日、この碑を原形に復し旅の便に供したい思う趣旨から、再建をはかりましたが、碑文の消耗するもの甚だしく、困却いたしておりました。たまたま軽井沢町追分の油屋主人が、本碑文の原本を保管していることを知り、主人のご厚志により、之を借用し、努めて原形を損なわぬよう配慮しながらここに記念碑の再建となったものであります。

昭和二十九年十一月三日

横川保線区長

碓日嶺鐵道碑

碓日嶺鐵道碑 陸軍大將從二位勳一等伯爵山縣有朋篆額

碓日嶺聳峙乎信濃上野之界與羽山脈蜿蜒延乎西南為全邦脊梁至信濃層疊回
合極其高峻碓日在其東境故阻隘險阨冠于五畿八道焉明治以還汽車鐵道之利
大開其自東京經上野信濃達越後直江津者碓日嶺橫絕當衝橫川輕井澤間阻隔
不通數里鐵道屢遣技師測地勢不能施工而罷至二十二年測之得三道焉曰入
山曰中尾山曰和見嶺又山工費少而地勢峻和見工費鉅而地勢夷中尾地勢工費
俱居二者之中而路程尤近因更精覈審測較其利害得失遂定為中尾橫川至輕井
澤長七哩中央曰熊平置停車場以二十四年六月起功至明年十二月而竣隧道凡
二十六其長合一萬四千六百四十四呎餘哩呎皆英國里法哩當我十四町四十五
間餘呎曲一尺餘橋十八架碓日者最鉅有三橋柱壘輒作之形如斗拱相距各六十
呎橋上至川底高百十呎長虹一帶翼然曳影乎碧流巉巖之上洵偉觀也二十六年
一月二十二日始試通車用阿武止氏機關車阿武止獨逸人嘗開鐵道於獨國波蘭
山地勢峻急因創製此距今僅八九年海外諸邦其用未廣云工費凡二百萬技師本
間英一郎重役技師吉川三次郎渡邊信四郎分督其工技手井上清介佐藤古三郎
林通友等助之我邦設鐵道於峻阪是為嚆矢焉嗚呼碓日嶺奇險天造而為坦途天
下之阻莫所往而不可鑿開也頃者輕井澤人佐藤萬平小川勇二等將勒其偉功以
傳不朽介川上陸軍中將詣予請文予善此工事之為全國標準而嘉惠斯民尤大也
不敢辭係之以辭曰

思慕吾孺兮瞻望三歎昔人何在兮遺蹟永傳重險依舊兮攢峯刺天行旅側足兮徑
危崖懸維闢維啟兮如砥如矢往來源源兮變邈為通武尊之武兮綏服夷鄙開物通
利兮百世媲美

明治廿六年四月

從四位勳四等文學博士重野安繹撰

從五位長英書

廣羣鶴刻

碓氷峠^{うすいね} 陸軍大将従二位勲一等伯爵山縣有朋篆額

碓氷峠は、信濃と上野の境にそびえ立っている。奥羽山脈がうねうねと西南に延びて、我が国の背骨のようになって信濃に達している。山々がいく重にもかさなり合って、高く峻しい地形をなしている。碓氷峠はその東の端にあつて、峻しいこと全国一の難所である。明治以来鉄道の便が大いに開けた。そして東京から上野、信濃を通り、越後の直江津まで路線を計画した。ところが横川軽井沢の間数里ばかりは、碓氷峠の山々が横たわり、また、「ついたて」のように立ちふさがつていて開通することができない。鉄道庁は何度も技師を派遣して地勢を測量したが施工不能で計画を取りやめた。二十二年になって、ここを測量し三つのルートを得た。即ち、入山ルート、中尾ルート、和美ルートである。入山ルートは工費は少ないが地勢が険しい。和美ルートは、地勢はゆるやかだが工費が多くかかる。中尾ルートは地形も工費も前二者の中間で、しかも、路程が最も短いことが判つた。そこで、更に詳しく測量して利害得失を比較検討して中尾ルートに決定した。横川軽井沢間は七マイルあり、中間地点に熊ノ平停車場を置くことにした。二十四年六月に起工して、翌年十二月に竣工した。トンネルは二十六、長さは一四六四四フィート余。マイルもフィートもイギリスの単位で一マイルはわが国の十四町四十五間余に当たる。一フィートは曲尺の一尺余である。橋は十八架けた。碓氷川に架けた橋が最も大きく、三本の橋脚を煉瓦で積みあげた。その形は柱上の桁形（アーチ）のようであった。橋脚の間はそれぞれ六十フィートで、川底までの高さは百十フィートである。それは、碓氷川の清流と峻しい巖の上にかかった長い虹のようでもあり、大鳥が左右に翼を広げたようでもあり、実にすばらしい眺めである。二十六年一月二十二日、アプト式機関車を用いて試運転をした。ア

プト氏はドイツ人である。ドイツでハルトウ山に鉄道を敷くとき、その地勢があまりにも峻しいので初めて考え出された機関車である。此の時からいまだ八、九年しかたつていない。世界の国々でアプト式を採用しているところは、まだ、あまりないと云う。工事費は、二百万ほどであった。技師は本間英一郎、重役技師は吉川三次郎、渡辺信四郎である。技手の井上清介、佐藤古三郎、林通友等が助手を務めた。わが国で峻しい坂に鉄道を敷いたのはこれが最初である。思えば碓氷峠の峻さは天の造つたものだが、平らな道（鉄道）とするため、天下の険といえども時の趨くところ、どうしても鑿り開かなければならなかつたのである。この時にあたり、軽井沢の住人佐藤万平、小川勇二等が、この大事業を碑に刻んで後世に伝えようと考えた。二人は川上陸軍中将の紹介で私に碑文を依頼してきた。私も、この工事が全国の指標になることを喜ぶと共に、鉄道が人々のくらしに大きな恵みを与えることを考え、敢えて引き受けた次第である。次によることば（辞）をおくる。

今は亡き我が妻を想い遙か彼方を望んで嘆き悲しまれた昔の人（日本武尊）は今どこにおられてこの偉業をご覧になつてゐることであろうか。（尊が）峠で難儀をされた古事は永く後世まで伝わっている。かさなりあつた険しい山々は昔からのもので、鋭い山の峯が天空を突き刺し、旅人の足をさまざまに、危険な道を歩いた。今、これが開け通じたのだ。砥のような平らな道（レール）の上を汽車が矢のようなスピードでひっきりなしに行き来している。遠いところが近くなつた。日本武尊が夷を征服したように、今我々は東国一の碓氷の難所をきり従えた。交通不便なところが開け、物資が流通する利益は、百世の後まで続くだろう。

明治二十六年四月 従四位勲四等文学博士 重野安繹撰

従五位 長茨書 廣羣鶴刻

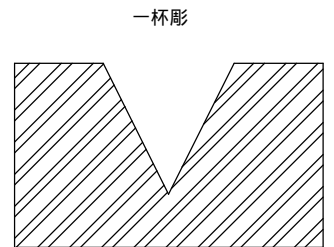
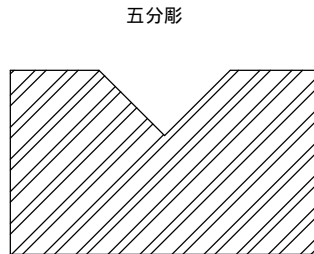
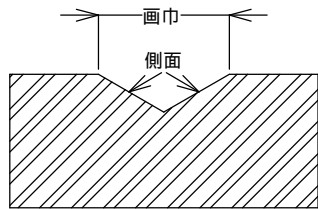
※ 本文は、松井田文化会「松井田の石碑」^{いしづかみ}上原富次氏やその他の資料を基に作成。

1 碑の種類

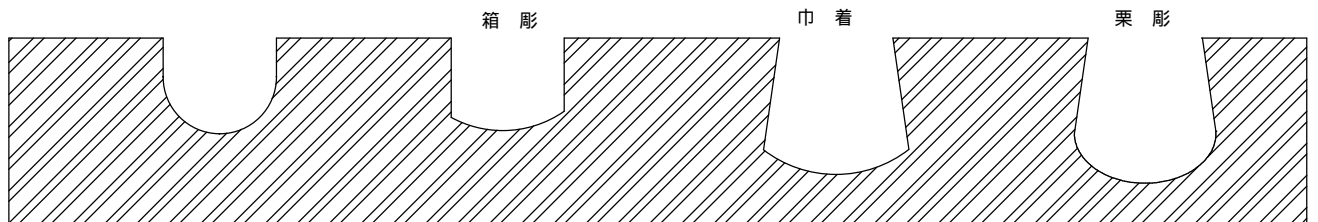
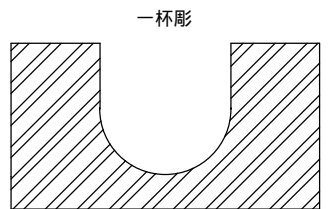
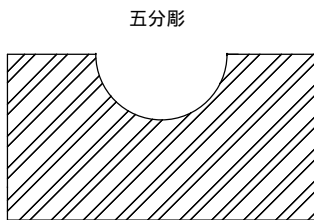
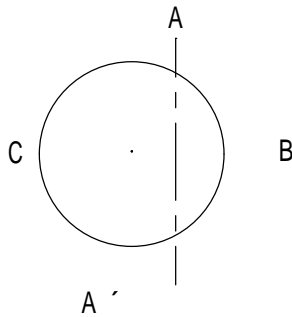
- ・ 完全碑 題額（碑題）と碑文をそなえる
- ・ 不完全碑 題額あるいは碑題が独立 社号標・寺標・道標
句碑・歌碑

2 彫の技法

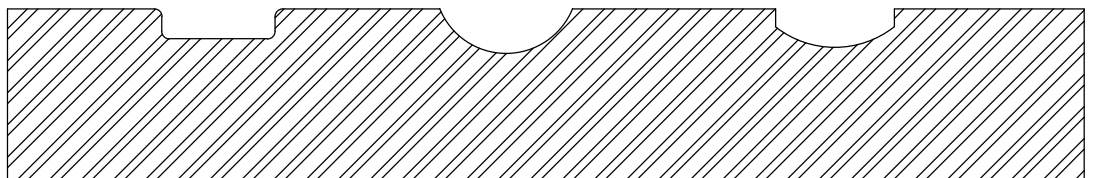
(1) 薬研彫



(2) 丸彫



(3) 篠彫



資料

著名碑

建年	碑銘	篆額	撰文	書	刻
1878年 11.09	表忠碑	陸軍大将二品大勲位 親王熾仁篆額 (有栖川宮 たるひと)	中邨正直	從五位 長茨	廣 群鶴
1881年 14.09	西征陣亡陸軍士官学校 生徒之碑	陸軍大将兼左大臣 二品 大勲位 熾仁親王	修史館一等編修從五位 川田 剛	從五位 長茨	廣 群鶴
1890年 23.10	前群馬県令楫取素彦君 功德之碑	参謀総長兼議定官陸軍大 将 大勲位 熾仁親王	元老院議員從四位勲四 等 文学博士 重 野安繹	元老院議員從四位勲三等 金井之恭 (ゆきやす)	宮 龜年
1891年 24.07	高山長五郎功德碑	大日本農会頭陸軍小将兼 議定官大勲位 能久親王 (北白川宮 よしひさ)	貴族院議員從四位勲四 等 文学博士 重 野安繹	貴族院議員從四位勲三等 金井之恭	廣 群鶴
1893年 26.04	碓日嶺鉄道碑	陸軍大将從二位勲一等伯 爵 山縣有朋	從四位勲四等 文学博士 重野安繹	從五位 長茨	廣 群鶴
1894年 27.08	南會田島翁養蚕興業碑	参謀総長大日本農会頭陸 軍大将大勲位賜頸飾菊花 章功二級 彰仁親王 (小松宮あきひと)	勅撰議員錦雞祇候 正四位勲四等 文学博士 川田 剛	勅撰議員錦雞祇候正四位勲三等 金井之恭	井 龜泉

